

自立への意欲を培う幼小中一貫教育の在り方
～ キャリア教育で培う能力・態度の育成を目指した、教育推進モデル作成を通して ～

目 次

I	研究主題	2－ 1
II	主題設定の理由	2－ 1
III	研究の仮説	2－ 2
IV	研究の全体構想	2－ 2
V	研究の経過	2－ 3
VI	研究の実際	2－ 3
1	研究の基本的な考え方	
(1)	自立への意欲の向上	2－ 3
(2)	キャリア教育で培う能力・態度の育成	2－ 4
2	一貫教育におけるキャリア教育構想	
(1)	幼稚園におけるキャリア教育	2－ 5
(2)	小学校におけるキャリア教育	2－ 8
(3)	中学校におけるキャリア教育	2－1 2
(4)	学校種間の系統性	2－1 4
(5)	自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)	2－1 5
3	キャリア教育指導構想	
(1)	キャリア教育の視点からの構想モデル	2－1 7
(2)	学習指導モデル	2－1 8
VII	研究の成果と課題	
1	成果	2－2 1
2	課題	2－2 1
<引 用 文 献>		2－2 1
<参 考 文 献>		2－2 1

研究実践学校	北郷町立北郷小学校
研 究 員	津 曲 宏 昭

I 研究主題

自立への意欲を培う幼小中一貫教育の在り方
ーキャリア教育で培う能力・態度の育成を目指した、教育推進モデル作成を通してー

II 主題設定の理由

現代社会は、産業や経済構造の変化、雇用の多様化・流動化等が進み、進学や就職といった子どもたちの進路や生き方をめぐる環境が大きく変化してきている。このような社会の中で、「近年、学力調査の国際比較やフリーター・ニート数の推移を通じ、学習意欲や就労・勤労意欲の低い青少年が増えつつあるのではないか」という懸念が生じている。(…中略…)その背景には、青少年の自己肯定感の低さや、『大人になりたくない』という現状への安住志向、慢性的な疲労感やあきらめ、集中力や耐性の欠如が見られるという指摘もある。¹⁾また、教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、若者の勤労観、職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さについても指摘されている。それに加え、子どもたちの自立にかかわる成長・発達上の課題、学歴社会におけるモラトリアム傾向等、子どもたちの生活や意識の変容にかかわる問題も浮かび上がっている。こういった中、社会と学校との乖離（若者の学校から社会への移行の困難さ）が問題視されるようになり、それに伴い現在の学校教育には、「社会との連続線上にある学校としての役割」を果たすことが求められるようになってきている。つまり、学校教育には、これまで以上に社会や学校種間の接続の在り方について考え、社会人・職業人としての生き方の基盤となる能力を育成することが求められている。そのためには、発達の視点に立って子どもたちを見つめ、自立した個人として身に付けなければならない能力を段階的に発達させなければならない。このことが、現代の学校教育の大きな課題として挙げられる。これら青少年の自立、キャリアにかかわる課題に対して「様々な答申や報告」*が出されその解決が望まれている。これらの答申や報告等には、現在の学校教育において地域の実態や児童生徒の発達段階を踏まえ、小・中・高が連携・協力し、組織的・系統的なキャリア教育の推進に努めることの重要性が述べられている。社会の存立・発展のためにも、学校教育を含む社会全体として、子どもたちの自己の生き方を見出す能力の育成が期待されている。

本県が進める「宮崎の教育創造プラン」においては、推進基盤の重点課題の一つとして「望ましい自信や将来に対する夢や希望の育成」が掲げられ、「自分さがし」の推進に努めるように提言されている。また、「一貫と連携・融合の教育推進」についても同様に掲げられ、幼、小、中、高における一貫指導の推進が一つの手法として示されている。これは学校の諸活動における重要な手法として位置づけられ、「宮崎の教育創造プラン」全体を貫く考えであり、「一貫と連携・融合の教育推進」の中で、子どもたちが将来に対する夢や希望をもち、社会的自立の基礎を培うことの大切さについて述べられている。

また、北郷町においては、まちづくりの柱を「個性豊かな人と文化のまちづくり」と定め、そのための基本施策として「教育環境の整備」を掲げている。地方行政の独自性や責任が強く求められるようになってきている中、北郷町においても将来を展望した独自の教育政策が必要になってきている。これら北郷町の教育理念を基に「北郷町教育改革基本計画ー新しい学校の姿『北郷システム』の創造に向けてー」が平成 19 年 9 月に策定された。この計画の中では、「郷土の豊かな自然や歴史に感謝し、自分に自信と誇りをもつ子ども」「夢や目標をもって自らの進路の実現に向けた努力を重ねるとともに、社会に貢献しようとする態度と実践力を備えた子ども」「国際感覚にあふれ、激動する社会をたくましく生きていく子ども」を目指す子どもの姿としている。そして現在、平成 21 年度に向けて教育環境や体制を整備した同一敷地内での幼保と小・中一貫教育が連携した一貫校の開校を目指している。また、この一貫教育の中で期待されていることの一つとして、就学前教育と義務教育 9 年間を通じた「育ち」と「学び」を、子どもの成長に合わせてつないだ一貫性のある系統的、継続的な指導が挙げられている。これらの実現のためには、一貫教育を推進する上で子どもたちの各発達段階を「キャリア教育」という視点から見つめ直し、子どもたちのキャリア発達を支

* ー参考文献ー を参照

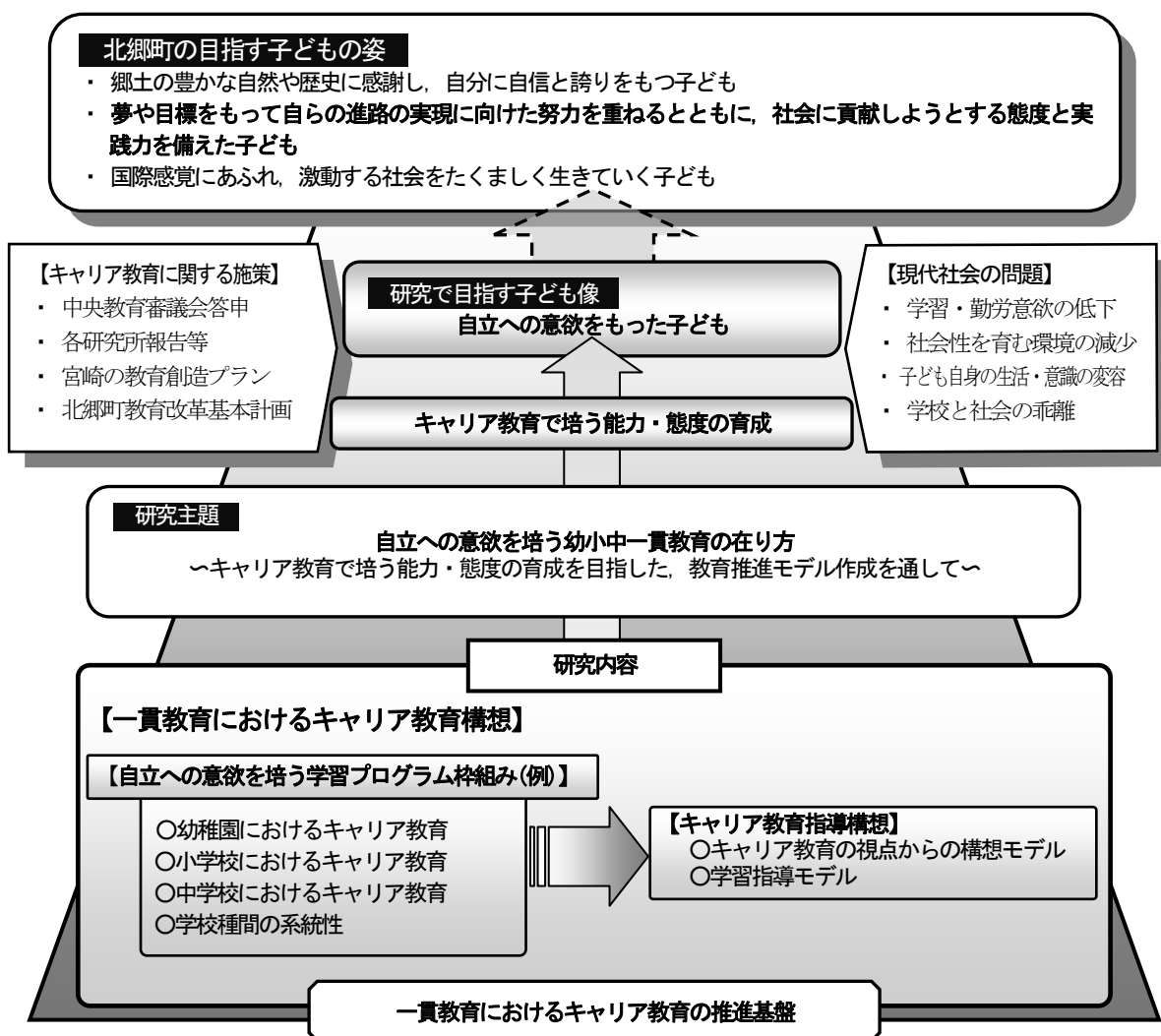
援していくことが大切であると考えられる。つまり、幼小中の接続や連続性を考えた学習プログラムの中で、それぞれの発達段階にふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力の育成を図っていくことが、一貫教育の中で義務教育を終え社会に羽ばたく子どもたちの「自立への意欲」につながっていくと考える。

そこで本研究では、キャリア教育の視点から「子どもたちの自立への意欲を向上させる」ために必要な能力・態度を明確にし、各発達段階にふさわしいキャリア形成が図られるような幼小中の接続や連続性を考えた全体構想を立案することとした。さらに、学校教育全体を通じて展開されるべきキャリア教育のねらいを位置づけた、指導構想についても構築を目指すことで、一貫教育におけるキャリア教育の基盤となる推進モデルを作成することができ、キャリア教育で培う能力・態度の育成、自立への意欲をもった子どもの育成につながっていくと考え本主題を設定した。

III 研究の仮説

将来の幼小中一貫教育を見据え、各学校種の系統性を考えたキャリア教育構想を立案し、キャリア教育の視点を位置づけた指導構想モデルを構築することができれば、自立への意欲を培う能力や態度を育成するためのキャリア教育の推進基盤を確立することができるであろう。

IV 研究の全体構想



V 研究の経過

月	研究内容	研究方法	備考
4～7	研究計画の作成 研究主題・副題、主題設定の理由の検討 文献整理、理論構築	理論研究	
8	中間発表会後の研究内容の再検討	理論研究	
9	検証授業計画、実態調査・観察計画の作成 キャリア教育全体構想の立案	理論研究 調査研究	
10	キャリア教育の視点からの構想モデルの開発(北郷小学校第5学年・6学年) キャリア教育の視点を位置づけた「道徳」「理科」の指導案作成等	理論研究 授業研究	研究実践学校 (北郷小学校)
11	幼稚園(北郷幼稚園)の実態調査・「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」 検証授業Ⅰ(北郷小学校第5学年「理科」)準備、実施、検証 検証授業Ⅱ(北郷小学校第6学年「道徳」)準備、実施、検証 キャリア教育の視点を位置づけた中学校「学級活動」の指導案作成、打ち合わせ	調査研究 授業研究 理論研究	研究実践学校 (北郷小学校) 研究協力学校 (北郷中学校) (北郷幼稚園)
12	検証授業Ⅲ(北郷中学校第1学年「学級活動」)準備、実施、検証 研究のまとめ	授業研究 理論研究	研究協力学校 (北郷中学校)
1	研究のまとめ 研究報告書作成	理論研究	
2	研究報告書原稿作成、プレゼンテーション資料作成	理論研究	
3	発表原稿、プレゼンテーション資料作成 主題研究発表	理論研究	

VI 研究の実際

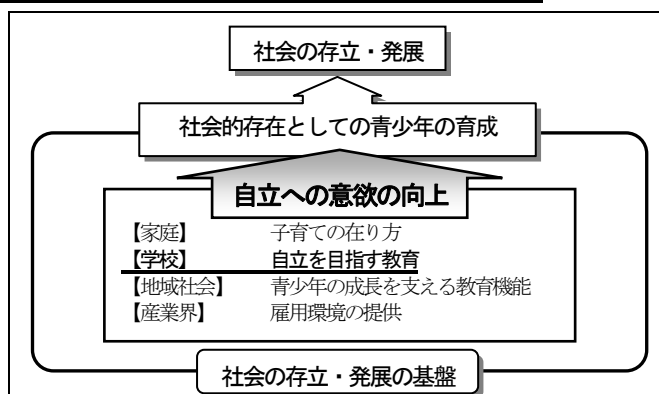
1 研究の基本的な考え方

(1) 自立への意欲の向上

中央教育審議会「次代を担う自立した青少年の育成に向けて―青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について―(答申)」では、「自立への意欲」を以下のように述べている。

青少年が社会から期待されている役割を果たすために必要とされている意欲

青少年期とは、好奇心にあふれ、希望に満ち、失敗や挫折を繰り返しつつもそれらに屈することなく前向きに挑戦し続け、そうした試行錯誤の中で意欲を持って自立した社会人の基礎となる要素や力量を培う時期である。青少年が社会から期待されていることとは、社会の中で一定の役割を担おうという意欲をもち、社会的存在へと成長することである。社会の存立・発展に向けた確固たる基盤整備のためには、青少年が社会的存在として社会



【図1】 本研究における「自立への意欲の向上」の考え方

への参画を果たすことが不可欠であるといつてよい。上述の答申では、青少年の自立への意欲の向上が、社会の存立・発展の基盤となるとしている。さらに、青少年の自立への意欲に対する大人の責任として、家庭、学校、地域社会、産業界が、自立への意欲に課題のある青少年に対して、手を差し伸べる責務があるとしている。その中には、「学校で児童生徒に自立を目指す教育を行ってきたのか」といった記述があり、青少年の自立への意欲を高めるために大人が何をしてきたのかについて厳しく問い直すべきであるとも指摘している。本研究では、自立への意欲の向上を【図1】のように捉えた。「意欲に欠ける」と見られる青少年の状態やその原因は様々であるが、学校は、個々の青少年の状態と発達段階を把握し、的確に対応していく必要があり、学校教育におけるキャリア教育の推進によって「自立への意欲の向上」といった今日の教育的課題にアプローチできると考えた。

(2) キャリア教育で培う能力・態度の育成

前項の答申では、「自立への意欲」には、進学するために学習したり就職するために準備したりといった具体的事象に対して発揮されるだけではなく、学習や準備に至る前の段階における気持ち、気構え、態度も含まれると述べている。つまり、自立への意欲を培うためには、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とが系統的に展開され、将来、社会人・職業人として自立し、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していけるよう、規範意識やコミュニケーション能力など幅広い能力の形成を支援することが必要である。その中で、子どもの発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進を図るには、職業的(進路)発達にかかわる諸能力を指導上のねらいとして明確に示して取り組む必要がある。

【表1 職業的(進路)発達にかかわる諸能力(4能力領域8能力)】

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【 自己理解能力 】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【 コミュニケーション能力 】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【 情報収集・探索能力 】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		【 職業理解能力 】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今、しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【 役割把握・認識能力 】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		【 計画実行能力 】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【 選択能力 】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		【 課題解決能力 】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

これら、職業的(進路)発達にかかわる諸能力については、国立教育政策研究所による「児童生徒の職業観・勤労観をはぐくむ教育の推進について(調査報告書)」に【表1】のように示されている。また、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」²⁾が、小学校の低・中・高学年、中学校、高等学校のそれぞれの段階において身に付けることが期待される能力・態度をどの程度身に付いているか等、児童生徒の発達を見ていくための見取図として示されている。そこで、本研究では、学校教育において自立への意欲を培う能力・態度を育成していくために、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を学習・生活上の課題という視点から見直した。幼小中一貫教育において自立への意欲を培

う子どもを育成していくためには、「学習プログラム枠組み」を見取り図ではなく目指す子どもたちの姿として捉え、キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明確に示していく必要があると考えたからである。学校教育における学習・生活上の課題から「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」を見直し、自立への意欲を培う能力・態度を学校教育の中で意図的・計画的に指導し、身に付けさせていくことがキャリア教育で培う能力の育成につながるとしているのが本研究の基本的な考え方である。

2 一貫教育におけるキャリア教育構想

本研究での一貫教育におけるキャリア教育の基盤を構築する上で重要なことは、自立への意欲を培うための構想を立案していかなければならないことである。その際、キャリア教育で培う能力や態度が、子どもたちの発達課題の達成と深くかわりながら育成されることを踏まえて作成していくことが重要である。そのためにも、現在各学校で行われている一つ一つの活動が、キャリア教育の視点からどのような能力の育成を目指しているものなのかを明確にする必要がある。そこで、本研究では、就学前段階(北郷町方式認定子ども園*)から中学校段階までを、自立への意欲を培うためのキャリア教育における指導や支援の枠として捉えた。幼稚園の子どもや教師の行動を観察した結果・分析、小学校、中学校における実践授業の記録、参観者の評価・協議等による分析から、キャリア教育における目指す子どもの姿を見出し、キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明確にしていく。

*北郷町教育委員会(平成19年9月)『北郷町教育改革基本計画～新しい学校の姿「北郷システム」の創設に向けて～』(p.14)参照

(1) 幼稚園におけるキャリア教育

ア 幼稚園教育とキャリア教育

幼稚園教育要領には、「キャリア教育」等の文言の記載はみられないが、幼稚園教育要領総則2幼稚園教育の目標の項には、「幼児期における教育は、家庭との連携を図りながら、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものであり、幼稚園は、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法 78 条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない」と記されている。これは、幼児期における教育の目的が、子どもたちの進路発達を支援し、主体的に自らの生き方や進路を選択決定できる能力を育成することを目指したキャリア教育の目的と合致していることを示している。そこで、幼稚園教育要領の5つの領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の中からキャリア教育と関連性のあるものを【表2】にまとめた。

【表2 幼稚園指導要領におけるキャリア教育に関する記述】

領域	領域説明	幼稚園教育要領の内容(幼稚園教育要領に記載されている領域)
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	先生や友だちと共に過ごすことの喜びを味わう。(人間関係) 友だちと積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。(人間関係) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。(人間関係) 友だちの良さに気付く、一緒に活動する楽しさを味わう。(人間関係) 友だちとのかかわりを深め、思いやりをもつ。(人間関係) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。(言葉) 親しみをもって日常のあいさつをする。(言葉)
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。(人間関係) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。(環境)
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。(健康) 自分で考え、自分で行動する。(人間関係)
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。(人間関係) 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。(人間関係) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。(人間関係) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。(健康) 自分でできることは、自分でする。(人間関係) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。(人間関係)

このように、キャリア教育におけるすべての能力領域に関連のある内容が幼稚園教育要領に数多く示されている。つまり、幼稚園における教育活動をキャリア教育の視点から見つめることで、子どもたちのキャリア発達にかかわる能力・態度を見出すことができるのではないかと考えた。そこで、実際に幼稚園で行われている教育活動の実態を調査、分析することで、就学前の子どもたちの発達段階で身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明らかにしていくこととした。

イ 幼稚園教育の実態から

北郷町立北郷幼稚園で実態調査(4日間)を行い、幼稚園で行われている子どもたちの活動の様子や教師の指導(発問や指示等)を観察・記録し、分析を行った。日々の活動やそのときの子どもたちの行動の観察から、キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度の視点について考察し、就学前の段階の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明らかにした。幼稚園での活動は、子どもたちの主体性を大切にしていることが見えてくる。まだまだできないことが多くある発達段階にあって、主体性の成長は、キャリア教育における自立という視点からも意義深い。さらに、あいさつや返事といった、コミュニケーションの基礎となる事項について、適切な指導が日々行われていた。これら分析の結果は次項以降【表3】に時系列で示している。就学前の子どもたちが身に付けておくべきキャリア発達にかかわる能力・態度が、すべての能力領域にわたることを調査・結果から分析することができた。

【表3 調査概要とキャリア教育の視点とのかかわり】

時間帯	教師の活動	子どもの活動	☆キャリア教育の視点 (キャリア意識の基となる基礎能力・態度)
7:00~ 11:00	○連絡帳の確認、健康観察 ○保護者との相談等 ○その日の活動準備 ○子どもたちの観察、言葉かけ ○事務 	○登園(7時30分から9時30分) ①あいさつ→②着替え→③おたより帳の提出→④タオルかけ ○自由に過ごす [雨天時] ・ブロック、積み木、ごっこ遊び ・おどり、なわとび [晴天時] ・外遊び(遊具、砂場、ボール遊び、鬼ごっこ、なわとび) ・鍵盤ハーモニカの練習	☆コミュニケーション能力 ○気持ちのよいあいさつをしている。 ☆課題解決能力 ○できることは自分でしている。
[11月5日] ・雨が降っていたので、屋内で遊ぶ子どもたちを、<u>教師は特に指示等することなく観察している。</u> ・女の子たちの中にもめ事が起こり「遊ばせてくれない」と言った子どもが泣き出す。<u>周りの子どもたちがブロックを手渡し解決。</u> [11月12日] ・出席シールがないと言っていた友だちの手を引いて先生のところにもらいに行く。「自分で言えたよ」と嬉しそう。 ・砂場で遊んでいた道具は、<u>自分たちで洗って片付ける。</u> [11月13日] ・なわとび200回を目指して何回もチャレンジしている。 ・転んだ友だちに「大丈夫?」と声をかける。 ・けんかの後、遊びの中で「さっきはゴメン」と自然に仲直りができる。 ・鍵盤ハーモニカの音を友だちと聴き合い、嬉しそうにしている。			☆計画実行能力 ○自分のやりたい遊びをさせている。 ☆自他の理解能力 ○友だちの悲しみを理解している。 ☆課題解決能力 ○できそうなことは自分でしようとしている。
11:00~ 12:00	○片付けの指導 ○朝の活動の指導	○片付け ○朝の活動 ・鍵盤ハーモニカ、お絵かき ・散歩、行事等	☆課題解決能力 ○自分でできることは自分でしている。 ☆コミュニケーション能力 ○気持ちのよい返事をしている。 ☆自他の理解能力 ○楽しみや喜びを共有している。 ☆課題解決能力 ○できないことは互いに教え合っている。 ☆選択能力 ○自分がしたい活動を選び、決まりを守っている。 ☆情報収集・探索能力 ○身近な人や地域の方と親しんでいる。
[11月5日] ・教師が名前を呼ぶと<u>元気よく返事をする。</u> ・教師が休日の出来事について発問し、<u>子どもたちが一人一人答え、周りの子どもたちも、会話の中に参加し楽しむ。</u> ・教師が鍵盤ハーモニカの指導を行い、演奏した後は、<u>拍手をみんなでする。</u>子どもたちはとても嬉しそう。 ・後片付けの場面では、<u>友だちどうして片付けの仕方を教え合う。</u> [11月6日] ・教師がどんな絵を描きたいか発問し、考えを出させながら子どもたちは自分が描きたいと思った絵を描いていく。また、マーカーや色鉛筆など自分で好きなものを選ばせている。 [11月12日] ・芋掘りの片付けの時、<u>手洗いの順番の決まりを守って仲良く並ぶ</u>ことができている。 [11月13日] ・散歩の際に<u>イチゴハウスで働く農家の方や地域の方にあいさつをし、お話をする。</u>			

12:00~ 13:00	○昼食の指導 ・姿勢、箸の持ち方 ・偏食・少食の子どもへの指導、マナー指導 ○歯みがき・うがい指導 	○昼食 ・牛乳運び、台ふき(当番) ・お弁当 ・歯みがき・うがい ・台ふき(当番)	☆職業理解能力 ○当番の活動を楽しみながら行っている。
・毎日お弁当の時間には、その日の当番が牛乳運び・配り、<u>台ふき、「いただきます」の号令を自分からてきぱきと楽しそうに行い、教師は、台のふきかた等の最小限の指導を行う。</u> ・<u>「いただきます」「ごちそうさま」をみんなで言って、食事、片付けをする。</u>			
13:00~ 14:00	○子どもと一緒に遊ぶ ○個別指導 ○教室等の掃除 ○読み聞かせの準備	○遊び [雨天時] ・読書、折り紙、なわとび ・ブロック、ままごと [晴天時] ・外遊び(遊具、ごっこ遊び、かけっこ、お花飾り作り、ながなわ) ・お絵かき、どんぐり駒回し	
[11月6日] ・入ってはいけないと言われている部屋へ入ろうとしている子どもに<u>周りの子どもたちが注意し、注意された子どももそれを聞き入れる。</u> [11月12日] ・屋外の遊具で遊んでいる際に、速く回したせいで一人痛いと言って泣き出すが、<u>周りの子どもたちが「大丈夫～」と声をかけ、元気になる。</u> [11月13日] ・ながなわを先生と一緒にする。<u>跳べた子どもにはみんなで拍手をして楽しく活動する。</u> ・ロッカーの片付けができていない友だちに、やり方を教える。			
14:00~ 15:30	○帰りの会での指導 ・明日の予定 ・お話し、読み聞かせ、歌 ・ゲーム ○外部講師の指導(月・木曜) ○お見送り ○保護者との相談等	○帰る準備 ・着替え、帰る準備 ・お話し、読み聞かせ、歌 ・ゲーム ○ルンルン教室(6歳児) ・歌、演奏 ・ゲーム ・読み聞かせ ○帰宅	☆選択能力 ○良いことと悪いことに気づける。 ☆自他の理解能力 ○友だちの喜びや悲しみを理解している。 ☆課題解決能力 ○できないことは互いに教え合っている。
・帰りのあいさつを元気よくして帰る。 [11月6日] ・着替えの場面では、<u>年上の子どもたちは年下の子どもたちの着替えを助けて手伝ってあげる。</u>			
			☆コミュニケーション能力 ○気持ちのよいあいさつをしている。 ☆役割把握・認識能力 ○自分の役割を意識して活動している。

ウ 就学前段階におけるキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度

幼稚園教育要領と4日間の調査の分析により、幼稚園教育における日常の活動の多くにキャリア教育とかかわりの深い活動が数多く存在することが分かった。そして、実際に幼稚園での子どもたちの活動調査、職員との情報交換を通して、就学前の段階の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を次項【表4】のように位置づけ、キャリア教育で培う能力の育成への指針とすることができた。

【表4 就学前段階の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度】

領域	能力領域	幼稚園教育要領と実態調査による分析結果	キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度
人間関係形成能力	自他の理解能力	・ 人間関係の中で、思いやりの心をもち喜びや悲しみを共感し、一緒に活動する楽しさを味わう。	☆ 友だちと、喜びや悲しみを共感し合う。
	コミュニケーション能力	・ 先生や友達との会話の中で、親しみをもって気持ちのよいあいさつをする。	☆ 気持ちのよいあいさつや返事をする。
情報活用能力	情報収集・探索能力	・ 身近な人や地域の方に親しみをもち、生活に関係の深い情報や施設に興味・関心をもつ。	☆ 身近な地域の生活に親しみをもって接する。
	職業理解能力	・ 生活の中で、当番の活動を楽しみながら行う。	☆ 当番の活動を通して、人の役に立つことの喜びを感じる。
将来設計能力	役割把握・認識能力	・ 生活の仕方を知り、自分の役割を意識して活動する。	☆ 自分の役割を意識して活動する。
	計画実行能力	・ 自分で考え、自分のやりたい遊びをする。	☆ 自分のやりたいことを見つけて活動する。
意思決定能力	選択能力	・ 自分がしたい活動を選び、よいことや悪いことがあることに気付き、決まりを守って活動する。	☆ 自分がしたい活動を決め、よいことと悪いことに気付き、楽しく生活する。
	課題解決能力	・ 自分でできることは自分でし、できそうなことも、やり遂げようとする気持ちをもつ。	☆ 自分でできることは、自分でしようとする。

(2) 小学校におけるキャリア教育

ア 小学校学習指導とキャリア教育

現行の小学校学習指導要領におけるキャリア教育にかかわる事項はすべての教科等にわたり、生き方にかかわる計画的な実施を求める記述も数多くなされている。生き方の指導や勤労観、職業観の育成等にかかわる内容は、すべての領域にわたり、充実したものになっていることが【表5】から読み取ることができる。

【表5 小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する記述の一部】

領域	領域説明	小学校学習指導要領における目標、内容等
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 ・ 学校のエデュケーション全体を通して、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。「内容1 主として自分自身に関すること」「内容2 主として他の人とのかかわりに関すること。」(道徳) 【コミュニケーション能力】 ・ 学級活動においては、学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上を図り、健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。「望ましい人間関係の育成」(特別活動)
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 ・ 地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。〔第3学年及び第4学年〕(社会) 【職業理解能力】 ・ 勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を涵養する体験が得られるような活動を行うこと。(特別活動)
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 ・ (前略…) 集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。〔第1学年及び第2学年〕(生活) 【計画実行能力】 ・ (前略…) 児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるように工夫すること。(特別活動)
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 ・ 各教科等の指導にあたっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について(…後略)(総則) 【課題解決能力】 ・ 自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。(理科)

つまり、キャリア教育は、全教育活動を通して行われなければならない、キャリア発達にかかわる諸能力育成という視点から、その系統性に留意し、発達段階に応じた学習を展開していく必要があると考えた。そこで、授業(各教科等)のねらい達成のための指導上の手立てをキャリア教育の視点として位置づけた授業を実践し検証することで、小学校の発達段階で身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明らかにできると考えた。

イ 授業実践から

北郷町立北郷小学校で「理科」「道徳」の検証授業を行った。キャリア発達にかかわる諸能力育成の観点から検証授業における授業の記録や参観者の評価等について考察し、小学校段階の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明らかにした。

(ア) 理科(第5学年「てんびんとてこ」)全8時間

段階	○学習内容及び学習活動 ☆キャリア教育の視点	・授業記録、参観者の評価からの考察 (☆キャリア発達にかかわる諸能力 ○キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度)
つかむ	【導入】 ○ブラックボックス(学習のポイントが見えない箱)を用いた実験提示 (第3次) ☆ブラックボックスを用いて視覚的に、疑問をもつことができるような教材を活用し、課題解決への意欲を高める。	・提示教材をいろんな方向からのぞき込み、予想を始める子どもたちの姿が見られ、ブラックボックスを用いた導入は、子どもたちの興味・関心を高め、課題解決につながっていた。導入において、学習のポイントとなる要素が見えなくして、子どもたちの関心を向けさせる手立ては、キャリア教育における課題解決能力の育成につながる。 ↓ ☆課題解決能力 ○<u>学習上の課題を解決しようとする。</u>
	【学習課題提示】 ○昔の道具をプロジェクターで提示 (第1次) ☆昔のてんびんや現在のてんびんを提示し、その特徴、どのような活動や職業に使われていたかを考えさせ、学習課題を考える。  2007 10 31 10:49:49AM	・プロジェクターで見た画像を提示することで、その特徴と自分の経験とのかかわりについて発表することができた。導入において、自分たちの生活にかかわることと関連させながら本時の課題を考えることで、課題を明確に捉えて、学習に取り組むことができていた。子どもたちが学習課題を自分自身の課題として捉えることができるようになるための手立ては、キャリア教育における課題解決能力の育成につながる。 ↓ ☆課題解決能力 ○<u>学習上の課題を自分自身の課題として捉え解決しようとする。</u>
見通す	【計画を立てる】 ○思考のための教材活用 (第2・3次) ☆子どもたちの思考を活性化させるために、ラミネートボード(かいたものを消したり書き足したりできるボード)を活用し、学び合いの中から解決方法を導き出せるようにする。 	・ラミネートボードには、絵や図も書き込み、色を工夫しながら説明したり、発表したりしていた。さらに、グループで意見を聞き合い、お互いの意見を尊重し、よい意見が出たらその都度ラミネートボードに消して書き換えていた。見通す段階で試行錯誤しながら考え、科学的な思考力を培う活動は、キャリア教育における課題解決能力の育成につながる。 ↓ ☆課題解決能力 ○<u>課題を解決するための見通しをもつ</u>

	【計画を立てる】 ○比較の視点の提示 (第4次) ☆課題解決のために、比較するためには条件を揃えるという視点が必要なことを示して、計画を立てることができるようにする。	・提示した条件について、「ああでもない」「こうでもない」と活発に話し合い、試行錯誤することは、客観的な結果を得るためにどのような条件で実験を行えばいいのかを考える上で大切になってくる。そのために比較の視点をもつことができるようになることは、キャリア教育における課題解決能力の育成につながる。 ↓ ☆課題解決能力 ○課題解決のための視点を見いだすことができる。
調べる	【実験する】 ○学び合いと考える活動 (第5次) ☆実験過程での学び合いの中に、考える場面を設定し、多くの意見の中から課題解決につながる考えを選択できるようにする。 	・実験の中で、分かったことや分からないこと、気付いたことを活発に情報交換していた。さらに、グループで意見交換をしながら、実験に必要な道具を自分で選び活動していた。調べる段階での学び合いの中で、自らの判断でよりよい考えを選ぶことは、キャリア教育における選択能力の育成につながる。また、この場面では、子どもたちは自分の意見に固執することなく、よい意見や考え方を選択し、客観的な科学的事象の気付きへとつなげることができていた。これは、キャリア教育におけるコミュニケーション能力の育成にもつながる。 ↓ ☆選択能力 ○自らの判断で、よりよい選択をしようとする。 ☆コミュニケーション能力 ○相手の気持ちを尊重する。
	○役割分担 (第4次) ☆実験をする際に、グループ内で役割分担を明確にさせ、互いにコミュニケーションを図りながら実験し、活動できるようにする。 	・「記録する役割」「つりあい判断する役割」「おもりをのせていく役割」に分かれ、お互いが自分の役割をしっかりと理解して活動し、実験によって役割を交代して、意欲的に活動することができた。役割をもつことでグループの中で一人一人の子どもが、自己存在感を感じることで、自らの意志を持ち責任感を育てることにつながると感じた。調べる段階で、グループ内のすべての子どもたちに役割を持たせることで、キャリア教育における役割把握・認識能力の育成につながる。 ↓ ☆役割把握・認識能力 ○責任をもって自分の役割をやり遂げ、その大切さを理解する。
まとめ・広げる	【補充と発展の学習】 ○振り返りコース〔補充〕チャレンジコース〔発展〕の選択 (第6次) ☆活動選択の場面では、補充的な内容と発展的な内容の選択をさせる際に、それぞれの活動のねらいや意図についてワークシートで示し、比較検討させることで主体的に選択・決定を行うことができるようにする。	・コース選択では、友だちの意見等にとらわれることなく、自らの判断でやれそうな活動を選び、選んだコースでの活動を楽しみながら行っている。コース別のものづくりの場面では、子どもたちからは「今までの復習をしっかりできていたから(発展)」「もっといろんなことを知りたいと思ったから(発展)」「まだあまり自信がなかった(補充)」といった感想が聞かれ、児童一人一人が主体的に選択・決定をしているように感じた。まとめ広げる段階で、これまでの学習を基に自分自身の判断で、活動内容を選択させることは、キャリア教育における選択能力の育成につながる。 ↓ ☆選択能力 ○主体的にやりたい、やれそうな活動を選択することができる。

(イ) 道徳(第6学年「本当の友情とは」)全1時間

段階	○学習内容及び学習活動 ☆キャリア教育の視点	・授業記録、参観者の評価からの考察 (☆キャリア発達にかかわる諸能力 ○キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度)
導入	【道徳的価値への方向付け】 ○「めあて」の提示 ☆ これまでの子どもたちの生活体験を基に、主題に対する興味・関心を高めさせ、ねらいとする価値に意識を向けさせる。	・ 生活経験を発表し、その中から学習のめあてとなるキーワードについて学級全体で考えた。道徳的価値への意識の高まりをねらう上で、課題意識をもつことは、重要になってくる。道徳の導入場面においても、課題意識をもつことはキャリア教育における課題解決能力の育成につながる。 ↓ ☆課題解決能力 ○ <u>生活や学習上の課題を、解決しようという意欲をもつ。</u>
展開前段	【道徳的価値の追求】 ○ 役割演技 ☆ 教師と一緒に役割演技をさせ、主人公の心情に迫らせる。 	・ 役割演技そのものの効果によって主人公の心情に迫ることは、発達段階から難しかったが、子どもたちは役割演技に注目し、興味をもって主人公の心情について考えようとしていた。展開前段において、学級全体で考えを出し合い練り上げる活動は、キャリア教育における自他の理解能力の育成につながる。 ↓ ☆自他の理解能力 ○ <u>多様な価値観に触れる。</u>
展開後段	【道徳的価値の自覚・深化】 ○ 体験の想起、自己認知 ☆ 本時の学習で気付いたことと関係づけながら、ねらいとする道徳的価値を主体的に自覚させる。	・ すべての児童がワークシートに記入し、自分のこれまでの経験を振り返っていた。自分のこれからの生き方を子どもたちが真剣に考えている姿が見られ、生き方そのものを学んでいるように感じた。展開後段で、学習で気付いたことと、自分自身の経験を関連させる過程は、自己理解が深まり、キャリア教育における自他の理解能力の育成につながる。 ↓ ☆自他の理解能力 ○ <u>自分の短所や長所に気付き、自分らしさについて考える。</u>
終末	【道徳的価値の高揚、意欲の喚起】 ○ 教師の説話 ☆ 将来の生活をよりよいものにするための説話を言い、道徳的価値の高揚につなげる。	・ 将来は、こんな人になりたいといった感想が多くみられ、前向きな考えをもつことができていた。教師の説話等で将来の生き方にかかわることを話すことが、自分自身の生き方について考える機会となる。終末の段階で学習した道徳的な価値から自分自身の将来のことを考えることが、キャリア教育における計画実行能力の育成につながる。 ↓ ☆計画実行能力 ○ <u>将来のことを考える大切さがわかる。</u>

ウ 小学校におけるキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度

キャリア教育の視点をもって授業を行うことで、小学校高学年という発達段階におけるキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度について考察することができた。小学校における検証授業から、日常の学習における指導過程の具体的な手立ての中に、数多くのキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度育成の手立てが内在していることがわかった。しかし、理科と道徳の考察だけですべての能力領域についての検証を行うことはできない。そこで、本研究においては、今回の授業実践によって明らかにすることができた、小学校(高学年)の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を【表6】のように設定した。

【表6 小学校(高学年)の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度】

領域	能力領域	キャリア教育推進の手引きの例	キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度
人間関係形成能力	自他の理解能力	- 自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。 - 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	☆ 友だちの多様な価値観に触れ、自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。
	コミュニケーション能力	- 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 - 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。	☆ 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場を尊重して行動する。
情報活用能力	情報収集・探索能力	- 身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 - 自分に必要な情報を探す。 - 気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。	
	職業理解能力	- 施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労が分かる。 - 学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。	
将来設計能力	役割把握・認識能力	- 社会生活にいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 - 仕事における役割の関連性や変化に気付く。	☆ 社会生活における役割の大切さを知る。
	計画実行能力	- 将来のことを考える大切さがわかる。 - あこがれとする職業を持ち、今、しなければならないことを考える。	☆ 将来のことを考える大切さがわかる。
意思決定能力	選択能力	- 係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 - 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。	☆ 自分が今、しなければならないことは何かを判断し、主体的にやりたい、やれそうな活動を選ぶ。
	課題解決能力	- 生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 - 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。	☆ 生活や学習上の課題を自分の力で解決しようとする。

(3) 中学校におけるキャリア教育

ア 中学校学習指導とキャリア教育

中学校においては、現行の学習指導要領に進路指導に特化した記述が多く含まれ、学級活動や総合的な学習の時間においてキャリア教育にかかわる内容等が積極的に行われている。しかし、中学校学習指導要領をみると小学校と同様にすべての各教科等にわたってキャリア教育に関連する目標や内容等があることが見て取れる。【表7】

【表7 中学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する記述の一部】

領域	領域説明	中学校学習指導要領における目標、内容等
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 ・ 学校のエデュケーション全体を通して、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。「内容1主として自分自身に関すること」「内容2主として他の人とのかかわりに関すること。」(道徳) 【コミュニケーション能力】 ・ 外国語を通じて、(…中略…)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。(英語)
		【情報収集・探索能力】 ・ ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに(…中略…)それらを適切に活用する能力と態度を育てる。(技術・家庭) 【職業理解能力】 ・ 勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が(…後略)(特別活動)
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 ・ 全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。(特別活動) 【計画実行能力】 ・ 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校のエデュケーション全体を通じ、(…後略)(総則)
		【選択能力】 ・ 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること。(特別活動) 【課題解決能力】 ・ 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。(総則)

これからも、中学校における学習指導において、生き方の指導や勤労観、職業観の育成等にかかわる内容が、全教育活動を通して行われなければならないことがわかる。そこで、中学校で主に行われている進路にかかわる授業を実践し、そこから課題等について協議し考察することで、中学校の発達段階で身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明らかにできると考えた。

イ 学級活動(第1学年「働くとは?職業とは?」第2次/全2時間)

北郷町立北郷中学校で学級活動の検証授業を行った。検証授業と事後の協議・考察を基にキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度の視点から考察し、中学校段階の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を明らかにした。

過程	○学習内容及び学習活動 ☆キャリア教育の視点	・事後の反省、協議内容からの考察 (☆キャリア教育の視点 ○キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度)
導入	【ねらいへの方向付け】 ○めあてを確認する。 ☆ 仕事に就いて嬉しかったことやつらかったことを中心に数名紹介し、本時の学習につなげる。	・「身近な人のインタビュー」というかたちで仕事についての調査を子どもたちが行っていた。導入において前時までの学習を基にねらいへの方向付けをさせるためには、子どもたちが十分な情報を集めておく必要があった。調査によって情報を収集する能力を身に付けていく必要がある。 ↓ ☆情報収集・探索能力 ○情報を調査・収集する能力
展開	【個人思考】 ○自分の考えをまとめる。 ☆ これまで自分が得た情報を基に、働くことの意味について整理し、自分なりの考えをもつことができるようにする。 【集団での思考】 ○班で話し合い、考える。 ☆ グループ内での意見交換では、相手の考えを認めながら多様な考えをもつことができるようにする。 【全体でのねりあい】 ○出された意見について全体で整理し、まとめる。 ☆ 「働くことの意味」について多様な視点で整理し、考えをまとめさせる。	・ これまでの職業講話、職業調べを通して得た資料を基に、子どもたちは自分なりの職業に対する考えをもつことが大切な場面である。ここでの個人思考の場面では、調べ、集めた情報を自分なりに整理することが大切になる。調べた資料を基に解釈をするという能力を身に付けていく必要がある。 ↓ ☆情報収集・探索能力 情報を自分なりに解釈して整理する。 ・ 班での話し合いの中で子どもたちの話し合い活動における「ねりあい」が十分に行われなかったという反省があった。集団での思考において、話し合いにおける「ねりあい」の力は、段階を経て身に付けていかなければならない能力といえる。相手を認め配慮しながら、考えを深めていく能力を身に付けていく必要がある。 ↓ ☆コミュニケーション能力 相手を認め、配慮しながら人間関係を築いていく。 ・ 子どもたちは、様々な職業についての話し合いを通して、職業についての多様な考えをもつことができていた。現在の社会環境の中で、子どもたちには職業について知ることが求められているが、すべての職業を理解していくことは、大変困難である。「ねりあい」の中で、今後の課題に対して自分なりの考えをもつ能力を身に付けていく必要がある。 ↓ ☆計画実行能力 ○将来に対する自分なりの考えをもつ。
終末	【将来の夢の展望】 ○これから考えていかなければならないことについてまとめる。 ☆ 教師が話すことで、将来の職業生活と今の学習のかかわりの重要性に気付くことができるようにする。	・ 将来の職業生活との関連の中で今の学習の必要性を理解することが大切になる。そのためにも、学習の中で体験談を聞いたり実際に体験したりすることで自分自身の将来について考える能力を身に付けていく必要がある。 ↓ ☆職業理解能力 ○学習の必要性を理解し、体験や経験を生かして将来について考える。

ウ 中学校におけるキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度

授業実践を通して、子どもたちの様子と参観した先生方との協議を基に中学校という発達段階におけるキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度について考察した。しかし、学級活動の考察だけですべての能力領域についての検証を行うことはできない。そこで、今回の授業実践によって明らかにすることができた能力領域について、中学校の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度を次項【表8】に設定した。

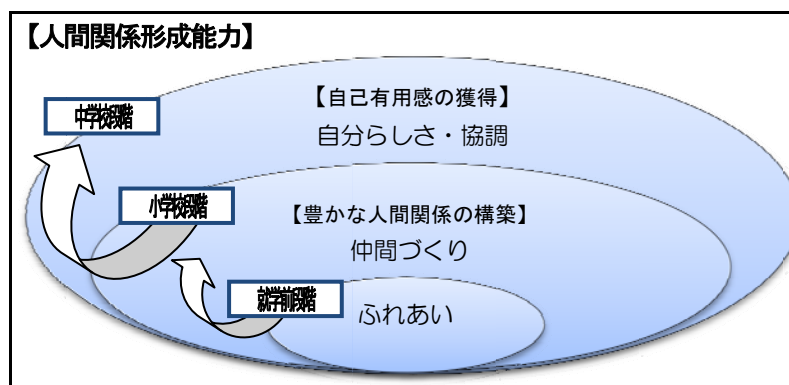
【表8 中学校の子どもたちに身に付けさせたいキャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度】

能力領域	キャリア教育推進の手引きの例	キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度
人間関係形成能力	島嶼能力 - 自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 - 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 - 自分の悩みを話せる人を持つ。	☆ 相手を認め、配慮しながら互いに支え合い、積極的に人間関係を築く。
	コミュニケーション能力 - 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 - 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 - リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 - 新しい環境や人間関係に適応する。	
情報活用能力	情報収集能力 - 産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 - 上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 - 生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 - 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	☆ 情報を調査・収集し自分なりに解釈して整理し、創意工夫を加えて提示・発信・活用する。
	職業理解能力 - 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 - 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 - 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	☆ 学習の必要性を理解し、体験や経験を生かして、自分の将来について考える。
将来設計能力	役割理解能力 - 自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 - 日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 - 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	☆ 将来に対する自分なりの考えをもち、暫定的な計画を立てる。
	計画実行能力 - 将来の夢や職業を思い描き、自分にとってふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 - 進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 - 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	
意思決定能力	選択能力 - 自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 - 選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 - 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	
	課題解決能力 - 学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面を生かす。 - よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 - 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	

(4) 学校種間の系統性

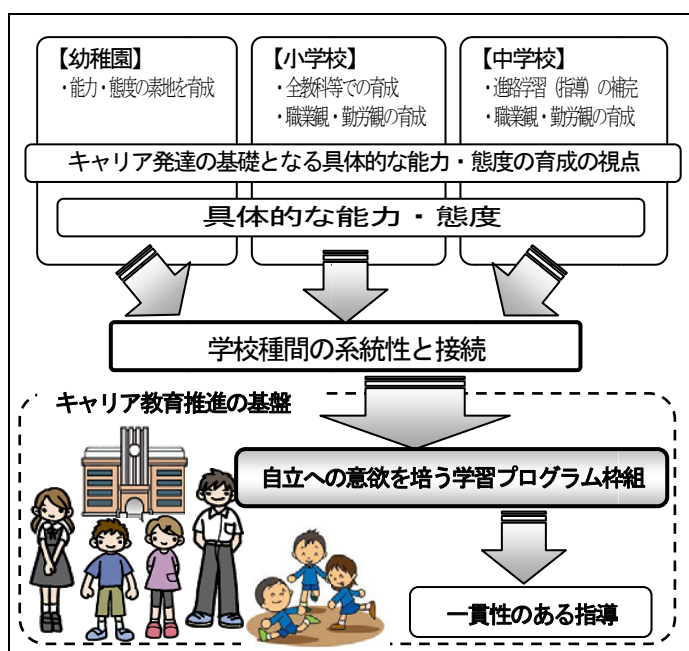
幼小中一貫教育において、学校種間の接続における段差いわゆるギャップという現象について考慮することは、一貫教育におけるキャリア教育の推進のための重要な視点である。ギャップを引き起こす要因は多岐にわたるが、本研究で、幼稚園、小学校、中学校を訪問していく中で、子どもたちのキャリア教育にかかわる指導のねらいや内容等について指導上の課題を感じた。それぞれの学校種で、全教育活動の中でキャリア発達にかかわる能力育成の基盤となる教育的活動が豊富にあり実践されているにもかかわらず、一つ一つの学習や活動の中でのキャリア教育の視点が明確ではなく、そのねらいや目的を意識した系統的な指導にまでは至っていないという現状がある。さらに、各学校種間で発達段階や指導体制が異なっていることからキャリア教育に対する意識の違いも大きい。キャリア教育を一貫教育において推進していく上では、各校種でキャリア発達にかかわる子どもたちの目指す姿を全教員が共通に理解し指導していくことが大切になってくる。つまり、発達段階に合わせた能力の育成という視点で各学校種において一貫性のある指導を行っていくことが、キャリア教育を推進していく上で重要になってくる。

そこで、「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」の中に、各学校種での各能力領域に目指す子どもの到達イメージ(人間関係形成能力の一例)【図2】を設定した。これにより、各学校段階の能力領域で目指している子どもの姿を明確に示し指導に一貫性を持たせることができ、学校種間でのキャリア教育における意識のギャップを緩和できると考えた。



【図2 能力領域に目指す子どもの到達イメージ】

(5) 自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)

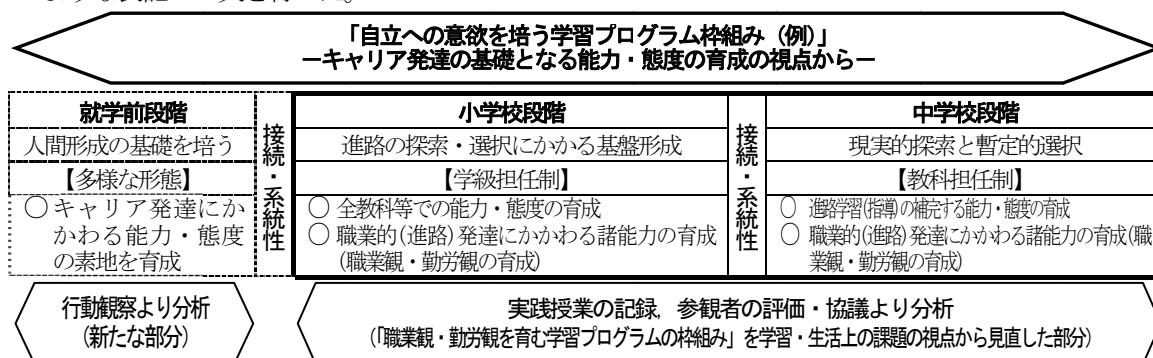


【図3 一貫教育におけるキャリア教育推進モデル】

で作成した「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」例であり、各学校種における子どもの発達段階や指導体制を考慮している。就学前段階では、キャリア発達にかかわる能力・態度の素地となる具体的な能力や態度を示した。小学校においては、学級担任制という指導体制や職業観・勤労観の基盤となる能力・態度を育成していくことの重要性から、全教科等でキャリア教育の視点として位置づけやすい表記を工夫した。中学校については、教科担任制という指導体制や進路にかかわる学習が重要になってくることから、それらを補完するための能力・態度の育成を各教科等で行うことができるような表記の工夫を行った。

一貫教育におけるキャリア教育推進を【図3】のように捉え、キャリア教育推進モデルとした。「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」は、これまで述べてきた、各学校種におけるキャリア教育に系統性と接続の在り方を考慮している。一貫性のある指導が、一貫教育におけるキャリア教育推進の基盤である。本研究における「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」は、就学前段階からの中学校段階までの枠で作成し、【図4】に示すように、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」を基に、就学前段階を新たに位置づけ、小学校、中学校へとつながりを持たせている。

次項【表9】に示したものが、本研究



【図4 幼小中一貫教育におけるキャリア発達段階とキャリア教育学習プログラムの関係】

【表9 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」例 ―キャリア発達の基礎となる能力・態度の育成の視点から―】

学校種	幼稚園・保育所 (認定子ども園)	小学校			中学校			
		低学年	中学年	高学年				
キャリア発達の段階	人間形成の基礎を培う時期	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期				現実的探索と暫定的選択の時期		
人間関係形成能力		豊かな人間関係の構築				自己有用感の獲得		
自他の理解能力 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	友だちと、喜びや悲しみを共感しあう。	ふれあい	自分や友だちの良さや大切さに気づき、お世話になった人に感謝する。	自分や友だちの良さを認め合い、自分の生活を支えている人に感謝する。	友だちの多様な価値観に触れ、自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。	仲間づくり	自分や友達の良さや個性を理解し、自分の悩みを話せる人をもつ。	自分らしさ・協調
コミュニケーション能力 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	気持ちのよいあいさつや返事をする。		あいさつや返事をし、自分の思ったことを伝える。	自分の意見や気持ちをわかりやすく伝え合い、協力して行動する。	思いやりの気持ちを持ち、相手の立場を尊重して行動する。		相手を認め、配慮しながら互いに支え合い、新しい環境や人間関係に適応する。 積極的に人間関係を築こうとする。	
情報活用能力		働くことへの関心と意欲向上				勤労観・職業観の形成		
情報収集・探索能力 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	身近な地域の生活に親しみをもって接する。	働くことへの親しみ	身近な地域での人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。	分からないことを調べることができる。 いろいろな職業や生き方があることに気付く。	自分に必要な情報を探し、まとめる。 身近な産業・職業の様子や変化を調べる。	働くことの大切さ	情報を調査・収集し自分なりに解釈して整理し、創意工夫を加えて提示・発信・活用する。 情報から、職業についての理解を深める。	働くことの意味
職業理解能力 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今、しなければならぬことなどを理解していく能力	当番の活動を通して、人の役に立つことの喜びを感じる。		係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。	係や当番の活動に積極的に参加する。 働くことの楽しさが分かる。	学んだり体験したりしたことを通して、勤労の大切さや苦労を知る。 生活や職業との関連を考える。		今の学習の必要性を理解し、体験や経験を生かして、自分の将来について考える。 勤労の意義や働く人々の思いが分かる。	
将来設計能力		夢や希望のイメージ設計				進路計画の立案		
役割把握・認識能力 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	自分の役割を意識して活動する。	やりがい	手伝いや割り当てられた仕事・役割の大切さが分かる。	互いの役割分担の必要性が分かり、日常生活・学習が将来の生き方につながっていることに気付く。	社会生活における役割の大切さを知る。 仕事における役割の関連性や変化に気付く。	夢や希望をこらし	よりよい集団活動のための役割分担や方法を考える。 様々な職業の社会的な意義を理解し、自己の生き方を考える。	夢や希望を進路実現へ
計画実行能力 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	自分のやりたいことを見つけて活動する。		決めたことの準備や片付けを行い、時間や決まりを守ろうとする。	計画づくりの必要性に気づき、学習の計画を立てる。 将来の夢をもつ。	将来のことを考える大切さがわかる。 あこがれの職業をもち、自分の日常をふり返る。		自分なりの考えをもち、暫定的な計画を立てる。 将来の職業について、その達成に向けて努力する。	
意思決定能力		主体的に努力する態度の形成				生き方の探索		
選択能力 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	自分がしたい活動を決め、良いことと悪いことに気づき、楽しく生活する。	充実感	自分の好きなもの、大切なものを持ち、学校生活での善悪の判断ができる。	自分のやりたいことに進んで取り組み、してはいけないことを自制する。	自分が今、しなければならないことは何かを判断し、主体的にやりたい、やれそうな活動を選ぶ。	努力とねばり強さ	自分の個性や興味・関心に基づいて選択し、判断や決定の過程には責任が伴うことを理解する。	主体的な選択と判断
課題解決能力 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	自分でできることは、自分でしようとする。		自分のことは自分で考え、行おうとする。	自分の仕事に対して責任を感じ、自分の力で課題を解決しようと努力する。	生活や学習上の課題を自分の力で解決しようとする。 将来の夢や希望の実現を目指して努力する。		自ら課題を見出し、主体的に解決していくこととする。 よりよい生活や学習、進路や生き方を目指して、主体的に課題を見出していくことの大切さを理解する。	

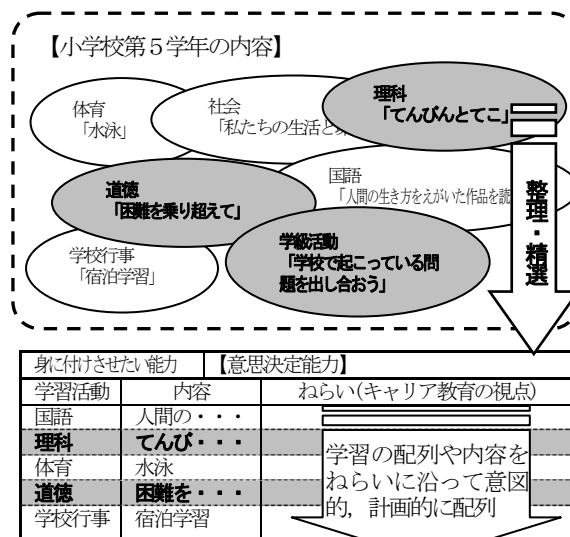
*太字は、「職業観・勤労観の育成」と関連が深いものを示す。

3 キャリア教育指導構想

(1) キャリア教育の視点からの構想モデル

自立への意欲をもった子どもたちを育成していくためには、実際の授業の中でどのようにキャリア発達にかかわる能力・態度を育成していくかが鍵となる。教科や特別活動、道徳、総合的な学習の時間等において、キャリア教育にかかわる内容が数多く存在しているにもかかわらず、それぞれがかかわりをもっていることや、発達段階における系統性があることに気付かず日々の学習が行われている現実がある。このように、教科等の関連や系統性が意識されずに個々の指導や学習活動が行われていくと、キャリア発達にかかわる諸能力育成の視点が無意識に流れてしまうという結果になる。

キャリア発達の基礎となる具体的な能力・態度の育成を日々の教育活動の中で実践していくことを考えると、その効果を上げるには、キャリア教育にかかわる個々の指導や学習活動が、孤立した時間にならないように工夫する必要がある。さらに、子どもたちの発達段階によって、身に付けさせたいキャリア発達にかかわる能力は異なるので、それぞれの発達段階で身に付けさせたい能力を育成するための具体的な計画を「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」を基に構想していく必要がある。【図5】に示したように、日常のすべての学習活動の中で行われている学習をキャリア教育の視点から整理・精選することでキャリア教育で培う能力・態度の育成に効果的な学習活動を、意図的、計画的に配列することができる。



【図5 学習活動の整理・精選のイメージ】

こういった考え方を基にキャリア教育の視点からの構想モデルを作成した。

ア キャリア教育の視点からの構想の在り方

キャリア教育全体構想を基に、各発達段階（学年）における全教育活動内に内在しているキャリア教育の視点を明確にし、それぞれの関連性を意識しながら日々の教育活動や授業に生かしていく。

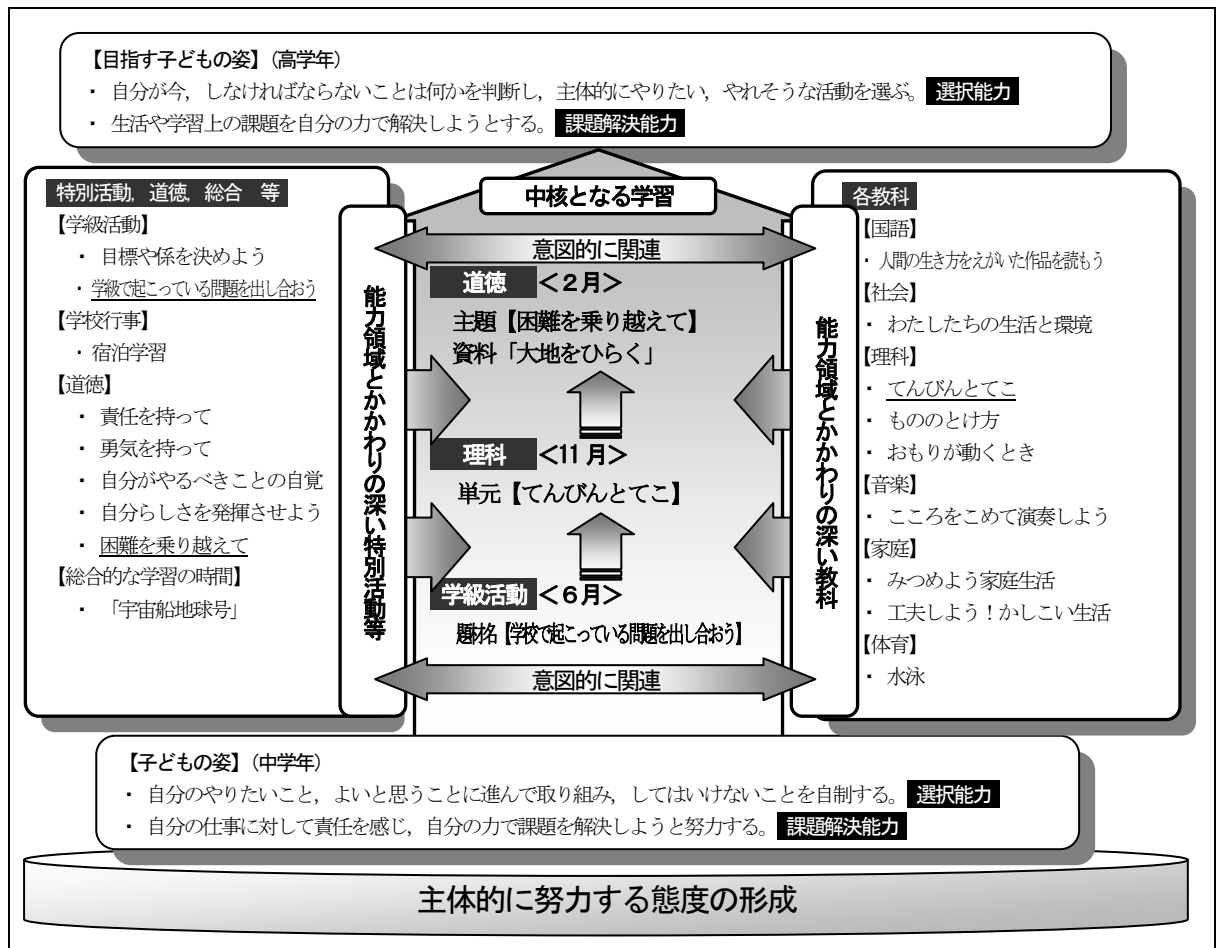
イ キャリア教育の視点からの構想作成の手順と留意点

- ① 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」をもとに、4能力領域における目指す子どもの姿を位置づける。
- ② 各教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間等の中から、単元、題材等を洗い出す。
- ③ それぞれの学習内容におけるキャリア教育の視点を把握する。
- ④ 中核となる教育活動（各教科等）を選定し決定する。

<留意点>

- ・ 構想の作成に当たっては、当該学年の児童生徒の実態や教師・保護者の願いに合わせ「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」における領域の中から重点項目を設定し、実践していくこと。
- ・ 中核となる教育活動は、小学校においては、すべての教科等から洗い出すことが望ましいが、中学校においては、指導体制等の面からも特別活動・総合的な学習の時間における進路指導を参考とすること。

構想の在り方や手順を参考に、小学校第5学年の「キャリア教育の視点からの構想例」を次項【図6】のように設定した。「キャリア教育の視点からの構想」を年間を通して行うのか、学期を区切って行うのかは、学校や学年の実態によって異なってくるが、1年間を通して、意思決定能力の育成を重点項目としたとして、実際の年間指導計画や学校経営案を基に作成したものを一例として示した。



【図6 キャリア教育の視点からの構想例(第5学年、意思決定能力)】

(2) 学習指導モデル

ア キャリア教育の視点の位置づけ



【図7 学習指導におけるキャリア教育の位置づけ】

キャリア教育の視点からの構想を基に、具体的な学習がキャリア発達にかかわる能力の育成の視点から効果的に展開されることが求められる。そこで、各教科等の特性を考え子どもたちにキャリア発達にかかわる能力を効果的に身に付けさせるための指導の在り方について、検証授業を基にモデル化していくこととした。しかし、学習指導案の中に単にキャリア教育の視点を位置づけるだけでは、本来の教科の目標を見失いがちになってしまう。そこで、【図7】に示したように、学習指導においては、あくまでも各教科等の目標の達成をねらうものとしている。その過程で、キャリア教育という視点をもつことが、結果としてキャリア発達にかかわる能力・態度の育成につながっていくと考えている。「キャリア教育の視点からの構想モデル」を作成し、具体的な学習指導計画を立て実践していくこ

とで各発達段階において身に付けさせたいキャリア発達にかかわる能力・態度を意図的に育成することができると考えている。実際にどのような授業を行うことが子どもたちのキャリア形成に効果的であるか学習指導のモデルを示し、実際の指導に生かしていくことがキャリア教育で培う能力の育成においては重要になってくる。

イ 指導観、題材設定の理由等

- ① 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」をもとに、子どもたちに身に付けたい能力の視点を把握し、キャリア教育の視点として位置づける。
- ② 「キャリア教育の視点からの構想モデル」から、重点項目とするキャリア発達にかかわる能力の領域について記述する。
- ③ 具体的な指導観には、重点項目以外の能力領域からもキャリア教育の視点を位置づける。

【指導観の作成例】

○ 本単元は、学習指導要領 B物質エネルギー(2)「てこを使い、力の加わる位置や大きさを変えて、てこの仕組みや働きを調べ、てこの規則性について考え…」 …で見直し、生活に生かしていこうとする態度を育てていく上で意義深い。 ① キャリア教育の視点で本単元をみると、実験や操作活動、話し合い活動の中で様々な事象や結果を比較検討し、主体的に判断し選択・決定するといった選択能力を培う場面も多くみられる。さらにどの時間にも、自らの課題を設定してその解決に取り組む能力の育成を図る学習形態をより多く取り入れることができる。科学的なものの見方や考え方を身につけるためにも、疑問から課題を見出し、実験や観察、操作活動によって課題を解決したり、客観的なものの見方を養うために自ら判断しよりよい選択を行ったりすることが、本単元では大切になってくる。理科学習の中でこれら意思決定能力を育成していくことは、自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服するというキャリア教育の視点からも大変意義深い。 ○ 本学級の児童は、男子14名、女子21名、計35名である。積極的に実験、観察等に取り組む児童が多く、発表も進んで行っている児童が多い。1学期の…	☆選択能力 能力説明(p2-4 表1)を参考に記述 ☆課題解決能力 能力説明(p2-4 表1)を参考に記述 ② ☆意思決定能力 領域説明(p2-4 表1)より引用
…科学的な事象を見つけ出すことができるようにしたい。 ① また、キャリア教育の視点から本単元の指導についてみると、導入においては、子どもたちの疑問から動機づけを行い、明確な課題意識をもたせる。その後、結果を予想させ学習への見通しをもたせることで子どもたちが課題解決への意欲をもつことができるようにする。調べる段階では、操作活動や実験の中に比較したり選択したりする場面を多く取り入れ、自らの選択によって課題を解決する技能を身に付けさせたい。これら意思決定能力の育成によって自分のやれそうな活動を選び、学習上の課題を自分の力で解決しようと努力する態度の育成にもつなげていきたい。 ○ そこで、本単元の指導にあたっては、てんびん作りやつり合いの実験を通して、てんびんが水平につり合う条件を発見できるようにする。さらに、てこの…	☆課題解決能力 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」(高学年)を参考に記述 ☆選択能力 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」(高学年)を参考に記述 ③ ☆コミュニケーション能力 ・重点項目以外の能力領域についても記述
…てんびんとてこに関する学習に深まりや広がりをもたせたい。 ① 本時の学習におけるキャリア教育の視点は、課題解決能力、選択能力とコミュニケーション能力の育成である。本時では、「まとめ・広げる」段階で、てことてんびんを使った道具について考えさせる際にグループ内で担当の道具を決めさせ、その仕組みについての学び合いの中で、コミュニケーション能力の育成を図りたい。さらに、補充と発展の活動選択の場面では、補充的な内容と発展的な内容の選択をさせる際に、それぞれの活動のねらいや意図について示し、比較検討させることで主体的に選択・決定を行い、課題を解決することができるようにする。そして、選択した活動における課題が解決できたか、また、自分にとってふさわしい選択だったかワークシートによって自己評価させ、今後の学習活動における意思決定場面での課題解決や選択に関する意識をもつことができるようにしたい。	☆選択能力 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」(高学年)を参考に記述 ☆課題解決能力 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」(高学年)を参考に記述

ウ 単元等の指導計画

- ① 「主な学習内容及び活動」「評価計画」の項目に加え「キャリア教育で育む力」の項目を位置づける。
- ② 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」をもとに、キャリア発達にかかわる能力・態度を「キャリア教育で育む力」として記述する。

【指導計画の作成例】

主な学習内容及び活動	評価計画	キャリア教育で育む力 【意思決定能力】	
1 てんびんとてこ ○てんびんをつくって重さ比べをする。	・てんびんに興味を持ち、重さ比べをしようとしている。 [関心・意欲・態度] ・てんびんを作って、そのしくみを調べることができる。 [技能・表現]	① ・てんびんのはたらきについて課題をもち、解決方法を考えることができる。 [課題解決能力] ・多くの意見の中から課題解決につながる考えを選択することができる。 [選択能力]	② ☆課題解決能力 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」(高学年)を参考に記述 ☆選択能力 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」(高学年)を参考に記述
2 てんびんのつり合い ○てんびんのしくみを考える。	・上皿てんびんを正しく使うことができる。	・ものの重さをはかるにはどんな条件が必要か考え、それ	
5 学習したことをまとめよう ○てんびんのしくみやつり合う条件について考える。(本時)	・てんびんのきまりを使ってもものづくりができる。(補充) [技能・表現] ・てこの規則性を見出す実験ができる。(発展) [技能・表現]	・自分が追究したい活動を選び、実験によって課題を解決することができる。 [課題解決・選択能力]	

エ 学習指導過程

- ① 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み」における発達段階と照らし合わせながら、学習におけるキャリア教育の視点からの具体的な手立てや留意点を明記する。
- ② キャリア教育の視点の中には、キャリア発達にかかわる能力・態度を示し、教師がキャリア教育の視点を意識して指導できるようにする。

【学習指導過程の作成例】

【中学校 第1学年 学級活動 「働くとは?職業とは?」より】			
指導課程	学習活動及び内容	○指導上の留意点 (☆キャリア教育の視点)	
導入	1 前時までの学習を振り返る ・「身近な人へのインタビュー」結果のまとめを教師から聞く。 2 めあてを確認する。 「働くことの意味」について考えよう。	○仕事に就いて嬉しかったことやつらかったことを中心に数名紹介し、本時の学習につなげ、以後の学習に生かせるようにする。	② ☆職業理解能力 「キャリア教育学習プログラム枠組み(例)」(中学校)を参考に記述
終末	6 将来の夢について考える ・自分が将来の夢を実現させるためにこれから考えていかなければならないことについてまとめる。	① ☆「これから職業を選び、働く私へのアドバイス」のまとめを読ませ、「働くこと」と自分自身の進路の関係を意識させる。また、教師が今の生き方と将来の生き方とのかわりの大切さについて話すことで、将来の職業生活と今の学習のかわりの重要性に気付くことができるようにする。 (職業理解能力)	

VII 研究の成果と課題

1 成果

- 「自立への意欲を培う学習プログラム枠組み(例)」を作成し、一貫教育におけるキャリア教育の推進基盤の在り方について提案することができた。
- 幼稚園、小学校、中学校での調査、授業実践を通して、子どもたちの生き方にかかわるキャリア教育の視点からの全体構想を作成し、義務教育終了段階までのキャリア発達にかかわる能力・育成の方向性を示すことができた。
- キャリア教育の視点を位置づけた学習指導構想モデルを開発したことで、キャリア教育を推進していく上での学習指導の在り方を見直し、具体的な実践のための足がかりとすることができた。

2 課題

- 本研究における最終の目的は、「自立への意欲をもった子どもたち」の育成である。具体的な実践とその検証の在り方等、今後どのように研究を継続しその成果を明らかにしていくかが、大きな課題である。
- 幼小中一貫教育の教育システムの中でキャリア教育の推進を進めていく上で、教員のキャリア教育にかかわる共通理解が必要になってくる。キャリア教育についての合同の研修等を行い共通の意識をもって系統性のある一貫した指導を行っていくための計画等も必要になってくる。
- 本研究における成果を今後北郷町の教育改革にどのように生かしていくことができるか検討し、改善していく必要がある。

—— 引 用 文 献 ——

- ¹⁾ 文部科学省中央教育審議会(平成19年1月30日)『次代を担う自立した青少年の育成に向けて―青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について―(答申)』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115/001.htm). 2007. 4. 27 取得
- ²⁾ 文部科学省(平成18年11月)『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育の手引き―児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために―』(p.21)

—— 参 考 文 献 ——

- 文部科学省(平成16年3月一部補訂)『小学校学習指導要領解説 総則編』東京書籍
- 文部科学省(平成16年3月一部補訂)『中学校学習指導要領解説 総則編』東京書籍
- 文部省(平成11年9月)『小学校学習指導要領解説 道徳編』大蔵省印刷局
- 文部省(平成11年9月)『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社
- 文部省(平成11年9月)『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社
- 文部省(平成11年9月)『中学校学習指導要領解説 一特別活動編一』ぎょうせい
- 文部省、厚生省児童家庭局(2006)『幼稚園教育要領・保育所保育指針(原本)』チャイルド本社
- 文部省(平成3年9月)『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』チャイルド本社
- 文部科学省(平成4年10月)『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』チャイルド本社
- 文部科学省(平成18年11月)『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育の手引き―児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために―』
- 文部科学省、中央教育審議会(平成11年12月16日)『初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)』
- 文部科学省、中央教育審議会(平成17年10月26日)『新しい時代の義務教育を創造する(答申)』
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター(平成14年11月)『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)』
- 宮崎県教育委員会(平成15年3月)『学校教育を中心とした宮崎の教育創造プラン～宮崎ならではの教育～』
- 新潟県教育委員会(平成19年2月)『中1ギャップ解消に向けて 中1ギャップ解消プログラム』
- 北郷町教育委員会(平成19年9月)『北郷町教育改革基本計画 ～新しい学校の姿「北郷システム」の創設に向けて～』
- 三村隆男(2004)『キャリア教育入門 その理論と実践のために』実業之日本社
- 渡辺三枝子(2001)『キャリアカウンセリング入門 人と仕事の橋渡し』ナカニシヤ出版
- 仙崎武(編集)(平成12年10月)『教職研修総合特集 No. 142 キャリア教育読本』教育開発研究所

<研究実践学校> 北郷町立北郷小学校

<研究協力学校> 北郷町立北郷幼稚園 北郷町立北郷中学校